

夏休みを利用し、子供たちが海や川、プールなどで水遊びをする機会も多いと思います。そんな中、水辺のトラブルで子供が亡くなるなど痛ましい事故が、毎年のように起きています。

事故を防ぐためには、水辺の特徴をよく理解し、水難につながりやすい危険な場所や、危険な行為などをあらかじめ知っておくことが重要です。海や川など場所ごとに、事故予防のポイントを紹介します。

海水浴や川遊びをする時は天気や海、川の情報をチェックしましょう。自然でのレジャーは楽しい反面、危険も伴います。天候の変化により、海が荒れたり、川が増水したりすると、流されて溺れる恐れがあります。悪天候が予想される時は無理をしないことが大切です。出かける前はもちろん、遊んでいる間も天候の変化に注意しましょう。上流の方向の空に黒い雲が見えたり、雷が聞こえたりする場合は増水につながるサインです。

また、海水浴場や川岸の掲示などもよく確認する必要があります。海藻が茂っていて遊泳者に絡みやすい場所、流れの激しい場所などは、「遊泳禁止」「危険」などと注意を呼びかける文言が記載されていることが多いので、近づかないようにしましょう。

一方、釣りやボート遊びでは、万が一の水中への転落に備え、身体に合った救命胴衣を正しく着用することが必要です。

プールでは水泳や水遊びを気軽に楽しむことができますが、ささいな不注意や悪ふざけが思わぬ事故につながることもあります。

プール内には、吸い込まれる危険がある吸・排水口があり、過去にはこれに吸い込まれたことによるけがや死亡事故も発生しています。吸水口などの設置場所に注意し、不用意に近づかないようにしましょう。加えて、小さな子供は大人よりも転びやすく、すぐに立ち上がることが出来ません。そのため、プール内で転倒すると浅い場所で溺れる恐れがあります。

また、ぬれたプールサイドは滑りやすく、転倒事故が発生しています。頭を強く打つこともあり、大変危険です。プールサイドで走ったり、ふざけたりするのはやめましょう。

子供が水辺で遊ぶ時は、注意点について事前によく大人が言い聞かせるとともに、必ず付き添って目を離さないことが大切です。

事故に気を付けて、安全に、水辺のレジャーを楽しみましょう。